

## 【令和5年度授業改善推進プラン 道徳】

板橋区立高島第三小学校

<b>■児童の状況</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・興味をもって教材を聞くが、考えたことを表現することに苦手意識をもつ児童がいる。</li><li>・人の気持ちを考えずに自分の主張だけを通そうとする児童がいる。</li><li>・学校のきまりを守らない児童がいるが、教師が指導をすれば、素直に聞くことができる。</li><li>・善悪の判断や規則の在り方を正しく認識している児童が多い。一方で、「自分が正しく行動できているか。」という問いに対しては、自信がない児童もいる。</li></ul>
<b>■指導についての課題</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・道徳の授業の「めあて」のめあせ方が難しい。</li><li>・常に同じ児童の発表で授業が進んでしまう。</li><li>・その時間で学んだ価値を自らの生活に結び付けられるような活動を充実させる必要がある。</li><li>・「分かっているのにできない。」というギャップにせまる授業を行う。</li></ul>
<b>■授業改善に向けての具体的な方策</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童が話の世界に入り込むためには、話の内容を場面絵やデジタル教科書でいつでも見られるようにすることが大切である。朗読が終わった後は教科書を閉じるよう促し、児童が確認したいときは個別で確認してよいことを伝える。</li><li>・「めあて」をもつ際、事前にアンケートを取るなど、価値に迫りやすい「めあて」となるよう工夫をする。</li><li>・考え、議論する授業にするためには、道徳ノートを活用し、自分の思ったことや気持ちを書き、考えを整理できるようにする。また、グループで話し合いをさせたり、意見を聞いてもらったりすることで、なるべく多くの児童の意見を学級に反映させる。</li><li>・毎授業で、取り扱った内容や自分の考えについて振り返る時間を確保する。今の自分を振り返り、その時間に学んだ価値を自らの生活にどのように結び付けられるか、また、今後どのような自分になりたいかなどを考えさせる。</li></ul>